

公園をみる・観る

～ト、マンナソ、パンガップスムニダ(またお会いできて嬉しいです)～

10月24日晴れ、小春日和の公園に懐かしい顔がニコニコとやってきました。

2011年1月、来園された韓国環境教育センター所長、オ・チャンギル氏です。そのときは、クロツラヘラサギの保護活動をされているインチョン市・カンファ干潟センターの方々を案内されていました。そしてその訪問が、葦の会が訪韓するきっかけとなったのですが、今回は(社)自然の友研究所長として湿地プログラム学習のため、シフン市の職員とボランティアのメンバー総勢19名での来園でした。オ・チャンギル氏とは3年半ぶりの再会で、玄関で出迎える公園職員や葦の会のメンバーと和気あふれた挨拶が交わされました。シフン市の方々も葦の会の訪韓メンバーが着ているクロツラヘラサギの絵入りTシャツに興味をそそられたよ



うで、着ている会員をモデルに写真を撮ったり、触ってみたりと、ひとしきり賑やかな笑顔と韓国語で初対面の緊張感は吹き飛んだようでした。

レクチャールームで公園との情報交換が終わったあと、葦の会との交流タイムとなりました。



「またお会いできて嬉しいです(ト、マンナソ、パンガップスムニダ)」と歓迎の挨拶をし、会が準備したお茶やお菓子、果物などを囲んで最近の会の活動概要を話しました。韓国には紙芝居という情報システムが無くて、前回の来園メンバーが葦の会製作の紙芝居「アカテガニあっちゃん海に行く」を楽しそうに熱心に観

ておられたこともあり、今回も数日前に完成したばかりの「韓国のおともだち クロツラヘラサギのクンちゃん」の紙芝居を観ていただきたいと思っておりますが時間の都合上あらすじの紹介にとどまりました。あらすじのみの紹介とはいえ、オ・チャンギル氏の通訳を聞いて話しの運びに盛り上がり、紙をめくるたびに現れる絵の出来栄に歓声を上げるなどお客様は大興奮。いろんな質問が飛び交いました。あらすじの紹介だけでこんなに喜んでもらえるなら、タイムオーバーしてでも全部観てもらいたかったなあと非常に残念でした。

短い時間でしたが楽しく交流して、葦の会の心尽くしのお土産を手に、皆さん楽しそうに次の旅程に着かれました。別れ際オ・チャンギル氏は「是非、またカンファ市に来てください」と熱心に誘って下さいました。思えばクロツラヘラサギの保護活動という共通の環境テーマで始まった交流ルートですが、今後もいろんな面で親交を深め、情報交換しながら自然と人間の共生について共に行動したいと思いました。

今年も10月初旬から山口湾にクロツラヘラサギが飛来しており、時に公園の干潟でエサをついばむ姿も見られ国境の無い自然界は人間にも世界を広げてくれるなあと痛感しました。

